

学びの基盤づくりを誠実に 家庭・地域と共に子どもを育む

聖徳大学院教職研究科教授 西村佐二すけじ

社会の変化に伴い、公立小学校を取り巻く環境も大きく変わっている。これからの公立小学校はどのような役割を果たし、社会の期待に応えていくべきか。現状の課題や今後のあり方について、聖徳大学院の西村佐二教授にうかがった。

義務教育の役割を問い直す必要性

**義務教育の役割が曖昧になり
教師がやりがいを感じにくい状況に**

私が小学校の校長をしていた10年ほど前に比べて、最近、先生方に活力が乏しく、一体感が薄れているのではないかと気になります。一人で仕事を進める傾向が強まり、先生方が職員室に集まることも減ったようです。その理由はおそらく次の二つにあると思います。一つめは多忙化です。これは、学校完全週五日制の導入を機に加速しました。「家庭や地域での教育を充実させる」という本来の趣旨が徹底されず、学校は多くのことを抱

えたまま、子どもが学校で過ごす時間だけが短くなったのです。

二つめは、2000年頃からの規制緩和により、競争原理が学校にも持ち込まれたことです。これにより、他の学校との差別化などによって学校が評価され、競い合う雰囲気が生まれました。

どんなに忙しくても、やりがいを感じていれば教師は生き生きとしていられます。しかし、こうした流れの中で、学校が本来大切にすべきことが曖昧になり、先生方は何をすべきかを見失っているように見えます。義務教育はすべての国民が受けるものですから、学校によって教育内容が異なるのは困ります。義務教育はあくまでも「義務」であり、「サー

ビス」ではありません。この点が混同され、先生方には手を尽くしても尽くしてもやり切れない疲労感があるように思います。教育基本法や学校教育法が改正され、義務教育の目標が明確にされました。今回の学習指導要領改訂も含め、これを機に、一人ひとりの校長先生に改めて小学校のなすべきことを見つめ直していただければと思います。

公立小学校がすべきこと

**学びの基盤を築くと共に
学校で担うことを明確に伝える**

公立小学校の役割は、二つの基盤づくりにあると思います。それぞれの地域で生きていく上での基盤、そして、上級学校へとつながる学びの基盤です。こうした役割を踏まえること、今後の小学校に求められる教育活動は次のように考えられます。

基本となるのは、学習指導要領に定められている教育内容をしっかりと子どもに身に付けさせることです。その上で、伝統を引き継ぎながら、どの学校にも必ずある強みを自覚すると共に、自校の課題を見つけ、小さなことでもよいので新しいことに取り組むことです。これは、子どもの成長につながることに、校長先生がビジョンを示し、先生方が目標を共有して取り組むことで、先生方が手応えを

現在と未来をつなぐ小学校教育

実感し、学校に活力や一体感を生むことにもなります。

私が校長を務めたある小学校では、赴任当初、子どもたちが人の話を全く聞けませんでした。全校朝会でも同様だったため、先生方と協力し、朝会の後に話の内容を質問する小テストを試みました。数回後には、子どもたちは驚くほど話を聞けるようになりました。こうした目に見える成果があると、先生方に元気が出てきます。それが、結果的に子どもたちへの良い教育となるのです。

家庭や地域との連携は、「生きる力」を育むためにますます重要になります。学校がすべきことと、協力を求めることを明確にしましょう。例えば、給食指導やボランティア活動などで協力してもらえば、教師の負担軽減



にしむら・すけじ ◎東京都教育庁指導部初等教育指導課長、東京都公立小学校校長などを経て現職。専門は国語科教育。全国連合小学校長会会長、全国小学校国語教育研究会会長などを歴任。著書に『明日に生きる君たちへのメッセージ』（教育新聞社）、編著に『国語の活用力を育てる授業』（光文書院）など。

と共に、活動の質も高められます。小学校は、中学校や高校と比べて地域との結び付きが強い「地域の学校」です。小学校を「ふるさと」と思う住民が多く、「学校のために協力したい」という気持ちがあると思います。近年は、学校に対する保護者や地域の姿勢が変わってきたという声も聞きますが、だからこそ関係を大切にしてほしいと思います。校長先生は家庭や地域に対し、学校が出来ることや責任範囲を伝えた上で、協力をお願いしてみてください。時には言いにくい内容があったり、一時的に保護者との間に軋轢あつれきが生じたりするかもしれません。しかし、明確なビジョンを繰り返し伝えていけば、一緒に子どもを育てるという考えが必ず共有されるはずですよ。

家庭や地域と良い関係を築くには、地域性を踏まえることも大切です。私は、学校と地域の協力関係が熟していなかった学校では、学校が活動を主導しながら内容をオープンにすることで信頼関係を築きました。別の学校では地域の教育力が高かったため、地域全体で活動を考えていくような方針を採りました。

校長先生への期待

子どもに誠実に向き合い

自ら課題を見いだして目標設定を

教師には、どのような子どもにも誠実に向

き合う姿勢が不可欠だと思います。義務教育では、子どもは学校や教師を選べません。だからこそ教師の責任は重いのです。校長先生には、すべての子どもが生き生きと元気に通える学校づくりを目指していただきたいと思っています。そのためには、まず現場に立つ先生方がやりがいを感じる環境がなくてはなりません。

これまで小学校は、学力低下や教師の質の低下など、外部から問題を指摘されて対策に着手することが多かったと思います。しかし、言われたことをするだけの受け身の姿勢では、やりがいは感じられません。自分たちが見いだした課題を出発点に、「こんな学校にしよう」という目標を共有して努力する姿勢があつてこそ、学校全体の雰囲気が大きく変わっていくのです。

ポイント

- 義務教育は「サービス」ではなく「義務」。学校によって教育内容が異なるべきではない
- 公立小学校の役割は基盤づくり。学校が出来ること以外は家庭や地域にも協力を求め、子どもの「生きる力」を育てていく
- 自ら見いだした課題を出発点に目標を設定し、活力ある学校づくりを

*プロフィールは取材時(2011年3月)のものです